

各 位

平成12年9月8日

株式会社 神戸製鋼所
(コード番号) 5406

平成13年3月期 決算見通しについて

当社の第148期(平成13年3月期)の決算につきまして、今般その見通しを得ましたのでお知らせいたします。

(1) 連結決算見通し

当期のわが国経済は、活発なIT関連投資を背景に民間設備投資が回復基調に転じたことに加え、輸出についてもアジア向けを中心に引続き堅調であったことから、景気は緩やかな回復傾向にあります。一方個人消費は依然足踏み状態が続くなど、本格的な回復には至っておりません。

このような状況の下、当社及びグループ各社は、本年5月に策定した「連結中期経営計画」に全力で取り組むとともに、収益の確保に最大限の努力を払ってまいりました。

当上半期の売上高は、鉄鋼関連及びアルミ・銅関連の素材系事業において販売数量の増加が見込まれることに加え、半導体関連事業での製品価格の上昇などにより、全体では前回見通しに比べて100億円増収の6,400億円程度となる見通しであります。

損益につきましても、鉄鋼関連事業における鋼材販売量の増加に加え、半導体関連事業での業績回復が大きく寄与し、経常利益は前回見通しから120億円増益の170億円程度となる見通しであります。一方、当期利益は、退職給付会計及び時価会計の導入による影響を特別損失に計上することなどから、50億円程度にとどまる見通しであります。

下半期につきましては、公共投資の落ち込みやアジア地区における在庫積み増し等の影響が素材系を中心に懸念されますが、一方、半導体関連事業の業績は引続き好調に推移するものと予想しております。

この結果、通期見通しにつきましては、売上高は前回見通しに比べて100億円増収の13,200億円程度を、経常利益は前回見通しに対し150億円増益の450億円程度を、また当期利益は前回見通しに対し120億円増益の170億円程度を見込んでおります。

(億円)

		売上高	経常利益	当期利益
今回見通し	当中間期	6,400	170	50
	通 期	13,200	450	170
前回見通し	当中間期	6,300	50	0
	通 期	13,100	300	50
前 期 実 績		12,525	137	530

(2) 単独決算見通し

当上半期につきましては、鉄鋼を中心とした素材系部門における販売数量の増加等により、売上高は前回見通しに対して100億円増収の3,900億円程度を、経常利益については20億円増益の40億円程度を見込んでおります。

また、税引後の当期損益は、退職給付会計の導入に加えて、時価会計導入に伴う関係会社株式の評価損等を特別損失に計上することから、400億円程度の損失となる見通しであります。

通期の見通しにつきましては、国内外ともに先行き不透明であることなどから、売上高は8,000億円程度、経常利益は150億円程度と、前回見通し並みを予想しております。

一方、税引後の当期損益は、下半期において特別損失に計上する予定であった関係会社株式の評価損が減少する見通しであることから、前回見通しに対して50億円改善し、450億円程度の損失となる見込みであります。

		(億円)		
		売上高	経常利益	当期損益
今回見通し	当中間期	3,900	40	400
	通期	8,000	150	450
前回見通し	当中間期	3,800	20	400
	通期	8,000	150	500
前期実績		8,377	82	151

〔中間配当について〕

中間配当につきましては、平成12年3月末において欠損金を計上いたしましたことから、誠に申し訳なく存じますが、商法の規定により実施することができません。

事情ご賢察のうえ、何とぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当社といたしましては、事業構造の変革をさらに推し進め、財務体質の早期回復を図ることにより、「連結中期経営計画」に掲げた「グループトータルとしての企業価値の向上」に向けて、グループの総力をあげて取り組んでまいり所存であります。

以 上